

第1章 計画の概要

1-1 歴史的風致維持向上計画の基調

- (1) 名称：萩市歴史的風致維持向上計画
- (2) 計画期間：平成20年度～平成29年度
- (3) 目的：

萩は、「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」と言えるほど、毛利藩政期260年間に形成された城下町のたたずまいや町割りなどが今なお残っている。萩城跡や武家屋敷、町家、維新の志士の旧宅、寺院等は、それぞれが日本を代表する貴重な文化財であるとともに、萩のまち全体がかけがえのない姿で残されている。

さらに特筆すべきは、当時の人々の祭礼や芸能といった活動、萩焼、萩かまぼこなどの伝統技術や産業技術、城下町の街路の名称（筋名）などが、現在まで市民によって見事に受け継がれ営まれているという点である。

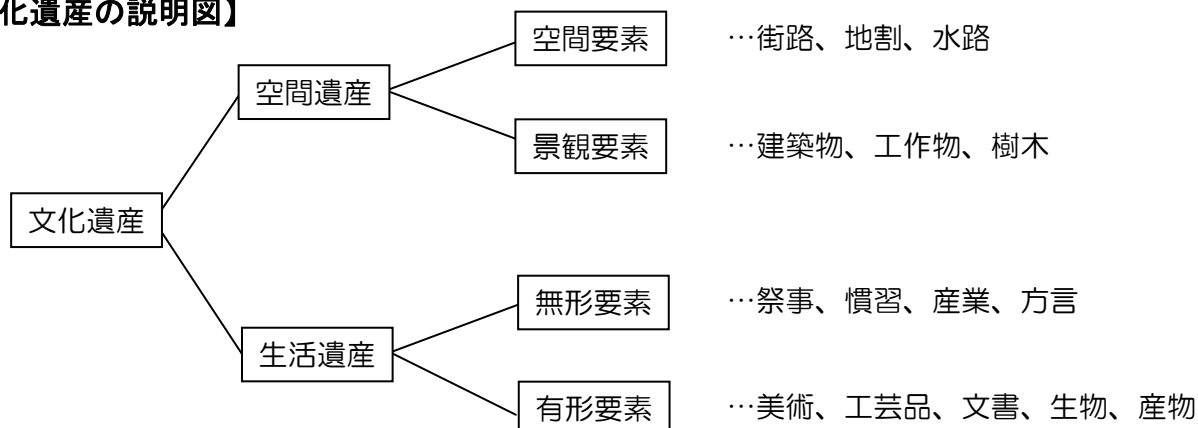
萩市では、このような歴史的な風情、情緒やたたずまいを守るため、昭和47年に萩市歴史的景観保存条例を制定するなど、積極的に施策を展開してきた。

また、平成16年には「萩まちじゅう博物館構想」をまちづくりの基軸とし、このかけがえのない文化遺産を市民と行政が協働して保存、活用、継承し、魅力あるまちづくりに努めるとともに、「萩は、日本の心のふるさと」と思われるようなおもてなしを推進することを宣言した萩まちじゅう博物館条例を施行した。

今回、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」が施行されたことにより、萩市のこれまでのまちづくり行政が、国による支援により一層進むことが期待されることから、この法律に基づいた歴史的風致維持向上計画を策定し、今後の萩市のまちづくりにおける進むべき方向を示すこととする。

従って、この計画は萩市におけるまちづくりの基本構想である「萩市将来展望」に掲げられた基本理念「市民自らが考え、主体的に取り組む市民本位のまちづくり」、「誇るべき歴史・文化、豊かな自然に調和し、新たな価値を創造する活力と魅力あるまちづくり」を実現するための計画のひとつと位置付け、策定にあたっては、関連する「萩市景観計画」及び「萩市都市計画マスタープラン」との整合を図ることとする。

【文化遺産の説明図】



1-2 まちづくりの方針との関連性

萩市では、市内に豊富に遺存する文化遺産を将来にわたって確実に継承していくため、文化財保護に努めるとともに、歴史的景観の保存に取り組んでいる。

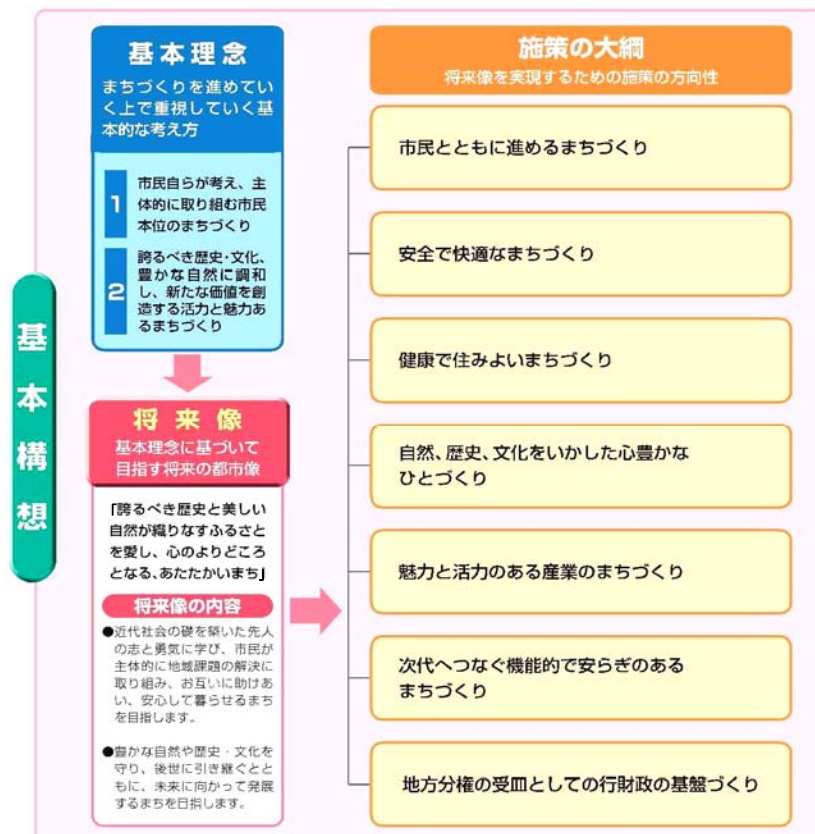
本計画は、萩の豊かな歴史的風致の維持及び向上を図り、もって萩市のまちづくりの基軸をなすものとして、以下に示す萩市の構想、計画と関連するものとして位置づける。

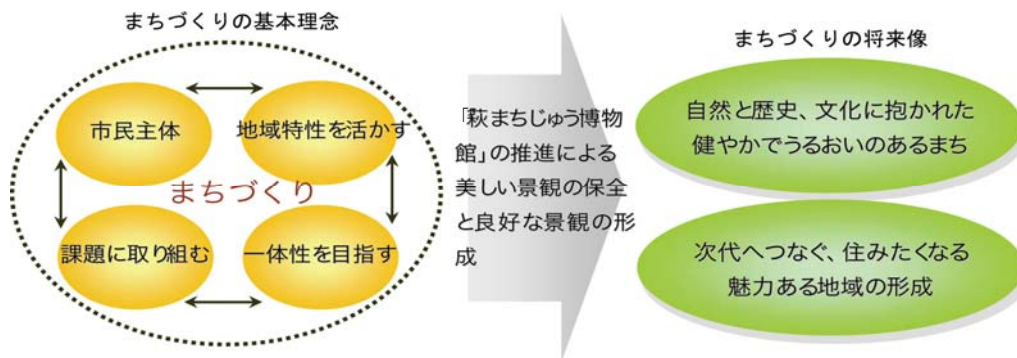
i) 萩市将来展望との関連性

本市は、市内で展開される各分野のまちづくりの最上位に位置づけられるものとして、平成19年に「萩市将来展望」を策定した。

本展望の基本理念として、①「市民自らが考え、主体的に取り組む市民本位のまちづくり」、②「誇るべき歴史・文化、豊かな自然に調和し、新たな価値を創造する活力と魅力あるまちづくり」の2つを掲げ、本市の将来像を「誇るべき歴史と美しい自然の織りなすふるさとを愛し、心のよりどころとなる、あたたかいまち」と設定していることから、萩の歴史的風致の維持及び向上は、本展望の実現を図る主軸のひとつとして位置づけられる。

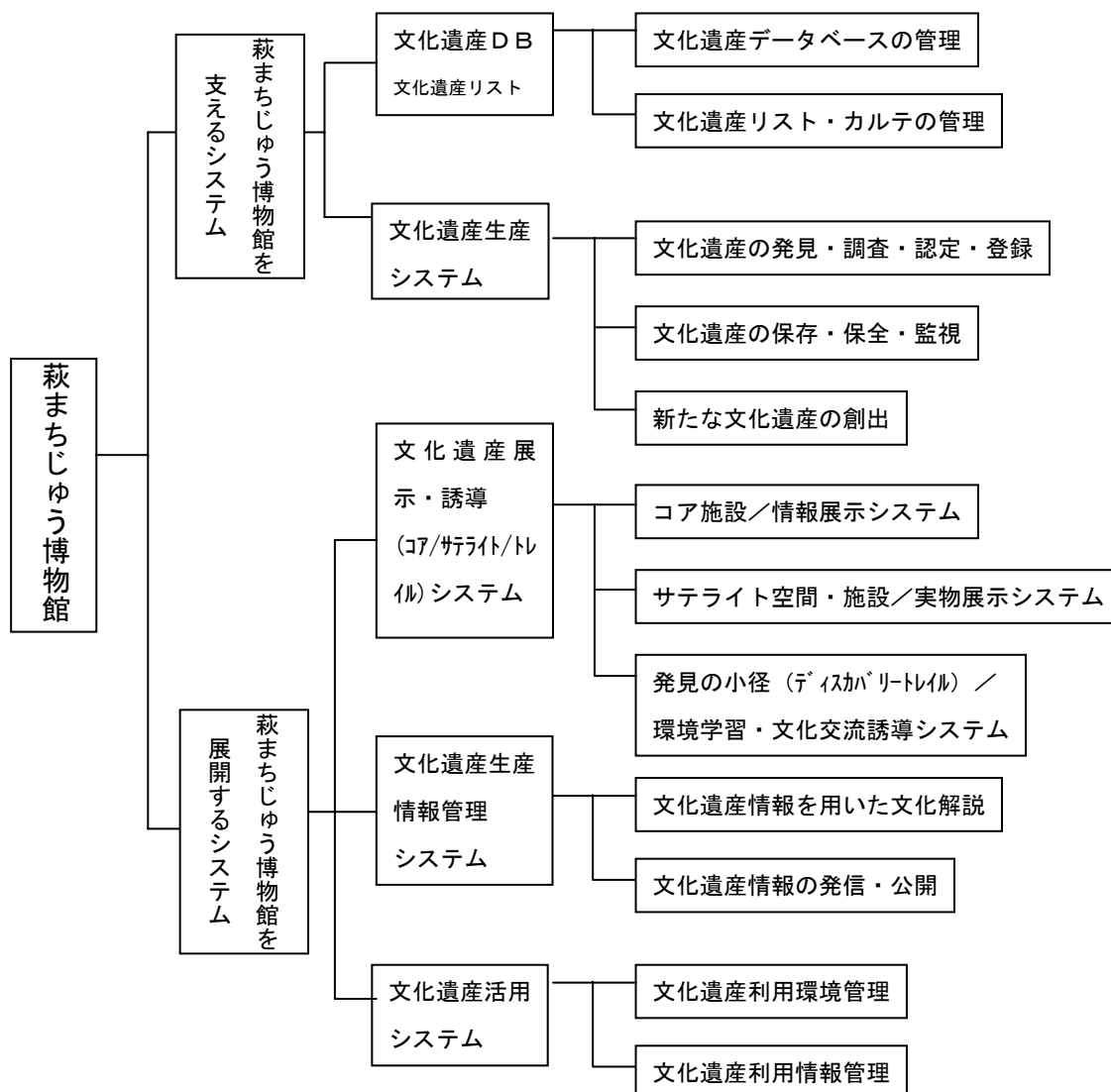
この基本理念及び将来像を受け、本展望では7つの施策を設定しており、その一つである「次代へつなぐ機能的で安らぎのあるまちづくり」の基本方針として、「萩まちじゅう博物館構想のもとに、風格ある歴史景観などを後世に伝えるため、市民と一体となって歴史的な文化遺産とその景観の保存に努める」ことを掲げている。





ii) 萩まちじゅう博物館構想との関連性

萩まちじゅう博物館構想は、数多くの文化遺産が豊富に存在する萩市において、萩市全域を屋根のない博物館と捉えるまちづくり、観光地づくりの取組みとして平成15年に策定された。萩市では、この取組みを確実なものとするため、「本市のまちづくりの基軸となる萩まちじゅう博物館を推進する」ことを目的とし、この実現に向けた市と市民の責務などを定めた萩まちじゅう博物館条例を平成16年に制定するとともに、「萩まちじゅう博物館基本計画・行動計画」を策定し、萩の歴史的風致を活かしたまちづくりの実現に向けて各種施策・事業に取り組んでいる。

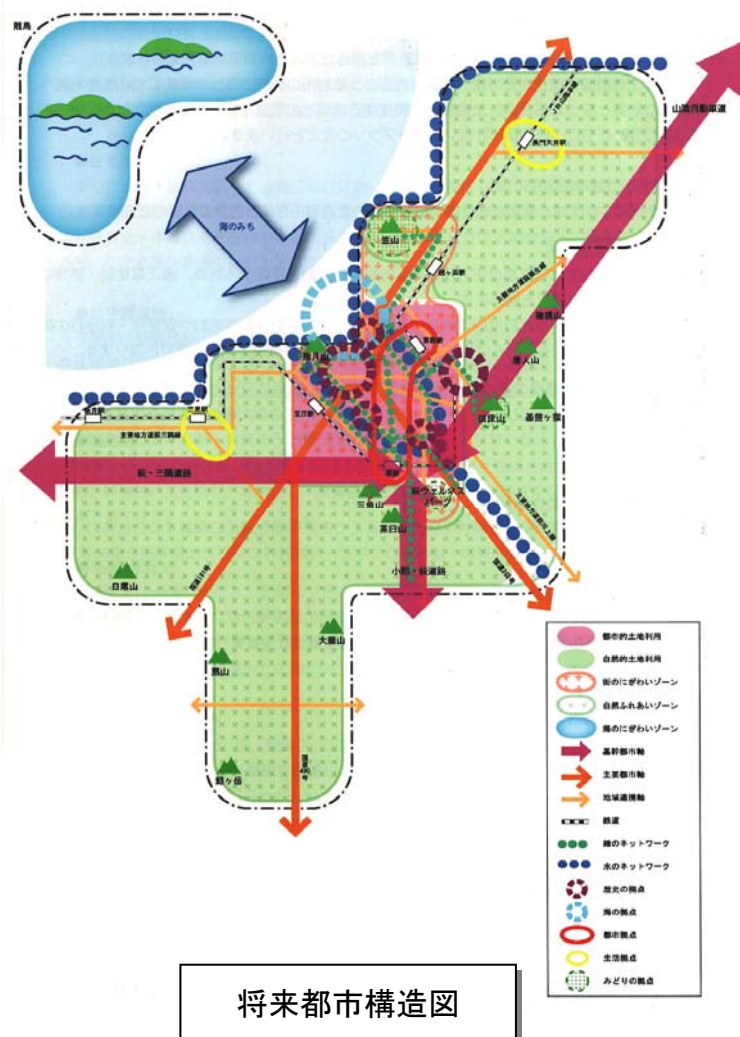


iii) 萩市都市計画マスタープランとの関連性

萩市では、旧城下町を中心とした一帯及びその周辺を都市計画法に基づく都市計画区域に定めている。この区域内における都市計画の基本方針を示す「萩市都市計画マスタープラン」を平成16年に策定した。

このプランの目指すべき都市の将来像を「以心（維新）伝心・安心のまち 萩 ～近世の都市遺産と共生するまちづくり～」とし、近世の城下町及び明治維新の舞台として受け継がれてきた歴史環境を守り育てていくことがまちづくりの重要な課題であるとしている。

特にまちづくりの方針を、「萩市の顔にふさわしい近世の都市遺産と共生したまちづくり」及び「豊かな海と歴史遺産を活かした維新のまちづくり」とし、いずれも歴史的風致を活かしたまちづくりを都市計画の主要テーマとして設定している。



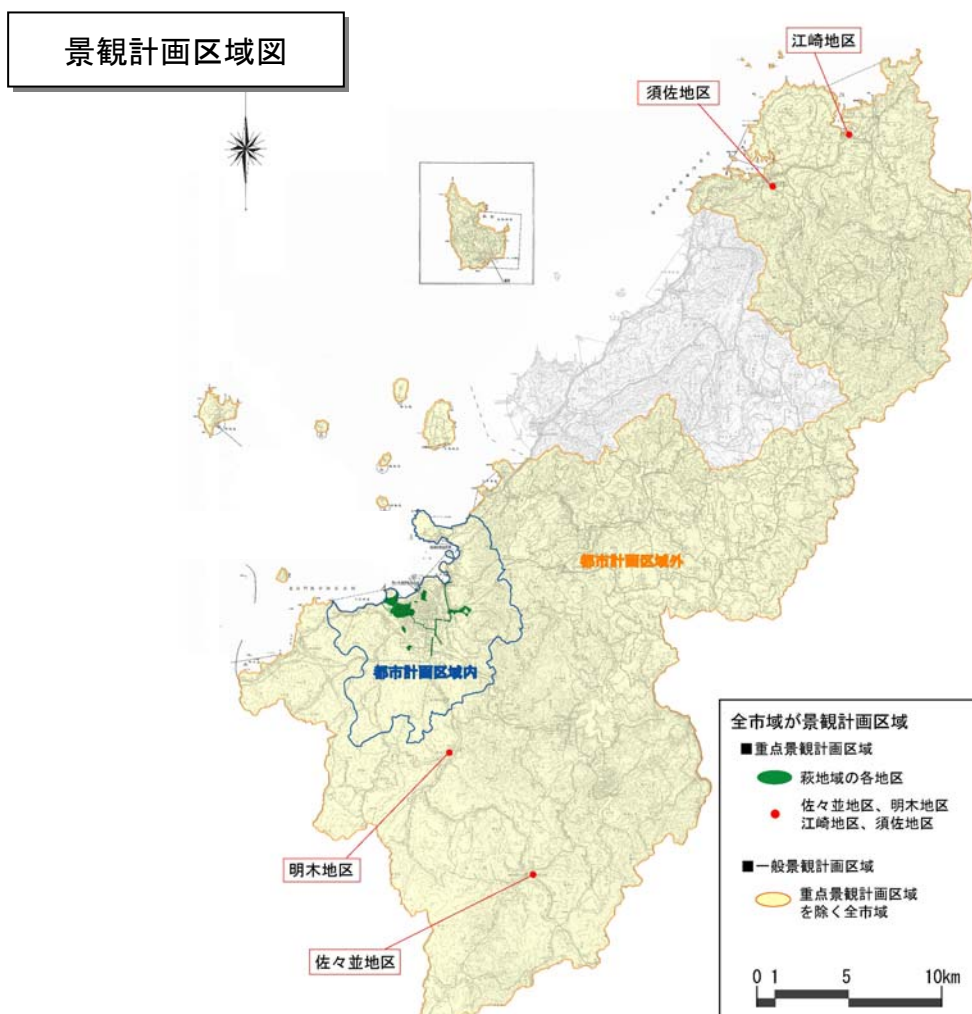
iv) 萩市景観計画との関連性

萩市は城下町を中心とした歴史的景観の保全に取り組んできた。昭和47年に、失われつつあった歴史的景観を保全するために萩市歴史的景観保存条例を制定し、市内7箇所を歴史的景観保存地区に指定した。この条例を平成2年に萩市都市景観条例に改定し、歴史的景観の保全に加え、新たに形成される都市計画区域内の都市景観についても、萩の歴史的景観と調和を図るための措置を講じることを義務付けた。

その後、平成16年に景観法が制定されたことを受け、萩市では、これまでの市独自の取組みをより確実なものとするために、同法に基づく景観行政団体の指定を受け、平成19年にこれまでの萩市都市景観条例を廃止し、景観法に基づく萩市景観条例を制定するとともに萩市景観計画を定めた。

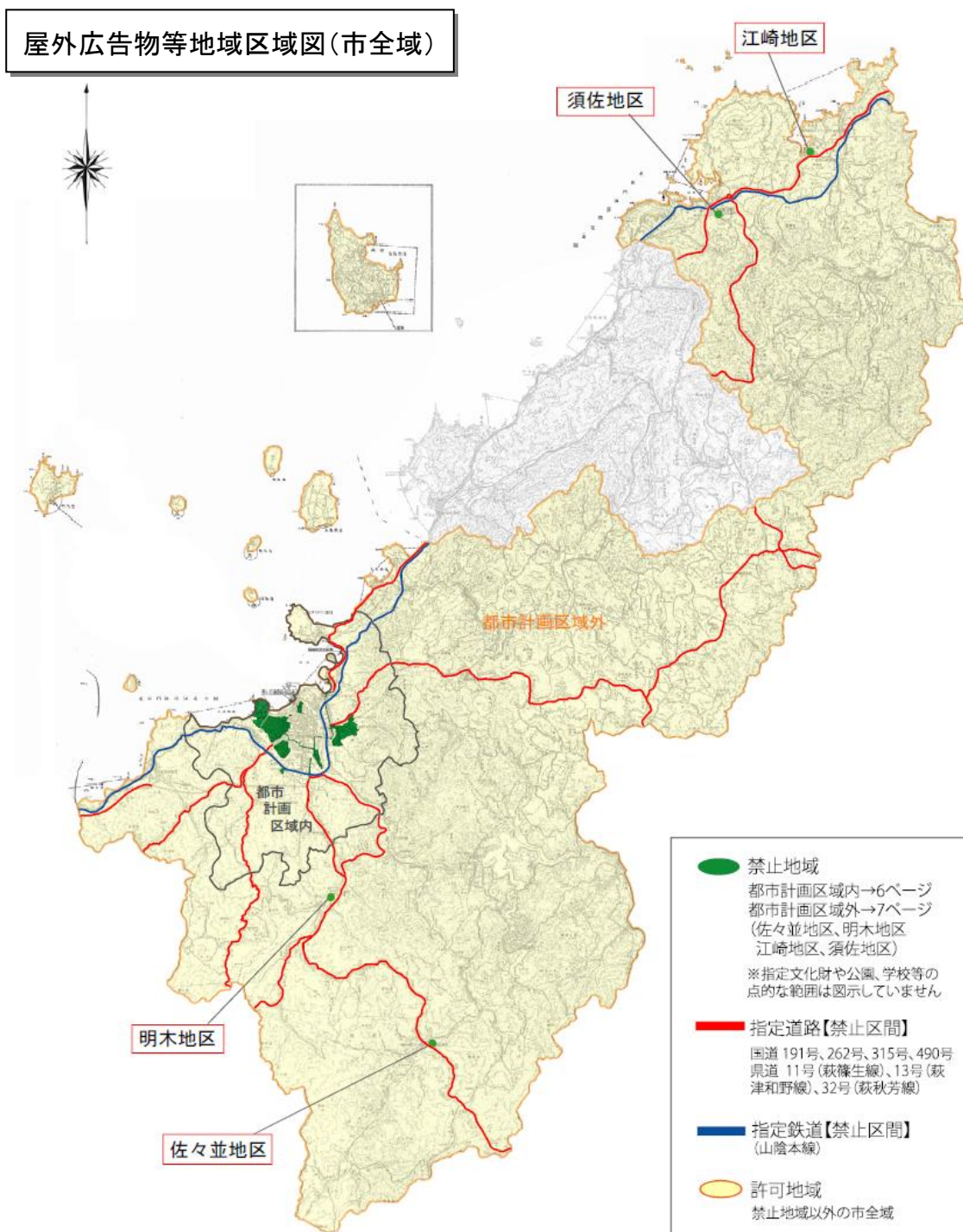
この計画では、萩市全域を景観計画区域として指定している。特に歴史的風致の保全やこれと調和する良好な景観の形成を図るべき地区として、国指定史跡、国選定重要伝統的建造物群保存地区、歴史的景観保存地区、都市景観形成地区及び市内の歴史的景観が残る地区を重点景観計画区域に指定し、これら以外の区域を一般景観計画区域に指定している。

これらは、上位計画となる将来展望の基本理念に基づくとともに萩まちじゅう博物館の取組みを全市域において推進していくことにより、美しい歴史的景観や豊かな自然景観の保全と良好な景観形成を中心としたまちづくりを目指すことを方針としている。



v) 屋外広告物等の規制との関連性

萩市では、歴史的風致の保全と調和に大きな影響を与える屋外広告物について、その規制を萩市景観計画の中に位置づけている。平成20年には萩市屋外広告物等に関する条例を制定し、屋外広告物に関する事務権限の移管を平成20年に山口県より受けた。この条例の目的として「屋外広告物の表示及び掲出物件の設置並びにこれらの維持について必要な規制を行い、あわせて、特定屋内広告物の表示及び維持について必要な規制を行うことにより、良好な景観を形成し、及び風致を維持する」ことを明記し、市全域を許可地域7種類、禁止地域5種類に区域設定し、地域の特性や広告物の種類に応じて、高さ、大きさ、色彩、形態などの基準を定め、歴史的風致と調和した景観誘導を図っている。

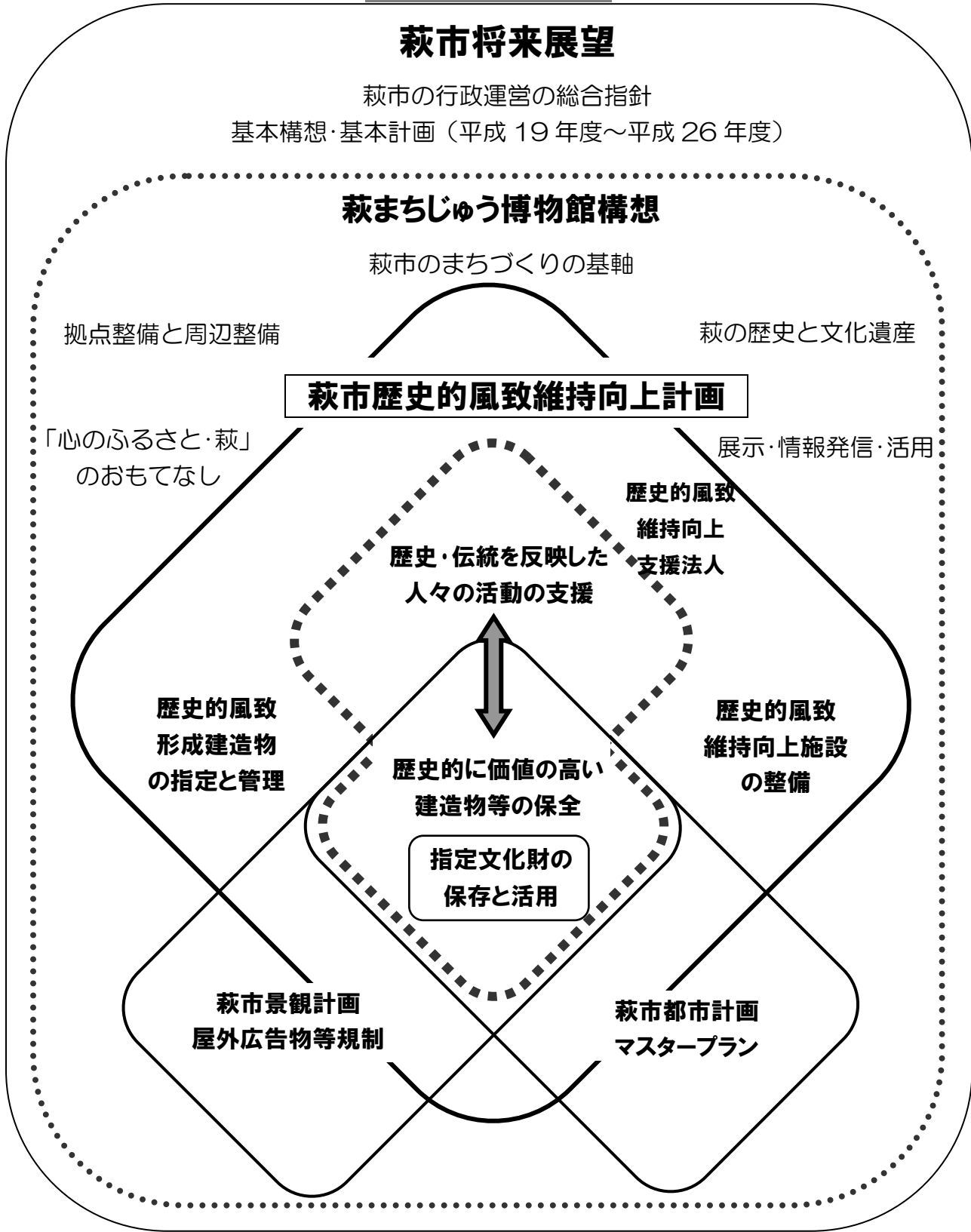


これまでの取組みにより、現在、萩市には183もの指定文化財等が存在し、その保存に取り組んでいる。また、これら指定文化財等の周辺地域の規制等を行い、まち全体として歴史的風致の維持及び向上を図るよう措置している。

なお、本計画に関連する本市の主な計画等は以下のとおりである。

- 萩市将来展望 ■萩まちじゅう博物館構想 ■萩市景観計画
- 萩市都市計画マスタープラン ■屋外広告物等規制

関連計画等の相関概念図



1-3 計画の策定経緯及び実施体制

【策定経緯】

萩市では、平成20年5月16日の同法の成立を受け、次のような経緯で計画の策定を行った。

○平成20年5月23日

「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」の公布
 庁内に「歴史的風致維持向上プロジェクトチーム」を設置

・庁内の政策調整を行う企画課を事務局とした2部長、10課長で構成

○同年 5月30日

プロジェクトチームの計画策定ワーキンググループの開催（1回目）

・同法及び計画の概要確認及び今後の日程調整並びに計画掲載事業の洗い出し

○同年 6月27日

プロジェクトチームの歴史的風致維持向上計画策定会議の開催（1回目）

・計画掲載事業及び重点区域について協議

○同年 7月1日

プロジェクトチームの計画策定ワーキンググループの開催（2回目）

・歴史的風致形成建造物の指定及び管理の方針等について協議

○同年 8月4日

プロジェクトチームの歴史的風致維持向上計画策定会議の開催（2回目）

・九州大学大学院教授（芸術工学研究院）西山徳明氏による講話

「歴史的風致維持向上計画、歴史文化基本構想及び萩まちじゅう博物館構想の関係について」

・計画全体の素案について協議

○同年 9月30日

萩市歴史的風致維持向上計画策定委員会の設置及び開催

・「萩市歴史的風致維持向上計画（案）」の構成、重点区域の範囲、歴史的風致形成建造物の指定の方針等について議論

○同年 10月1日

萩市文化財保護審議会の意見聴取

・「萩市歴史的風致維持向上計画（案）」について意見聴取

・主な意見：重点区域の設定について

○同年 10月8日

プロジェクトチームの計画策定ワーキンググループの開催（3回目）

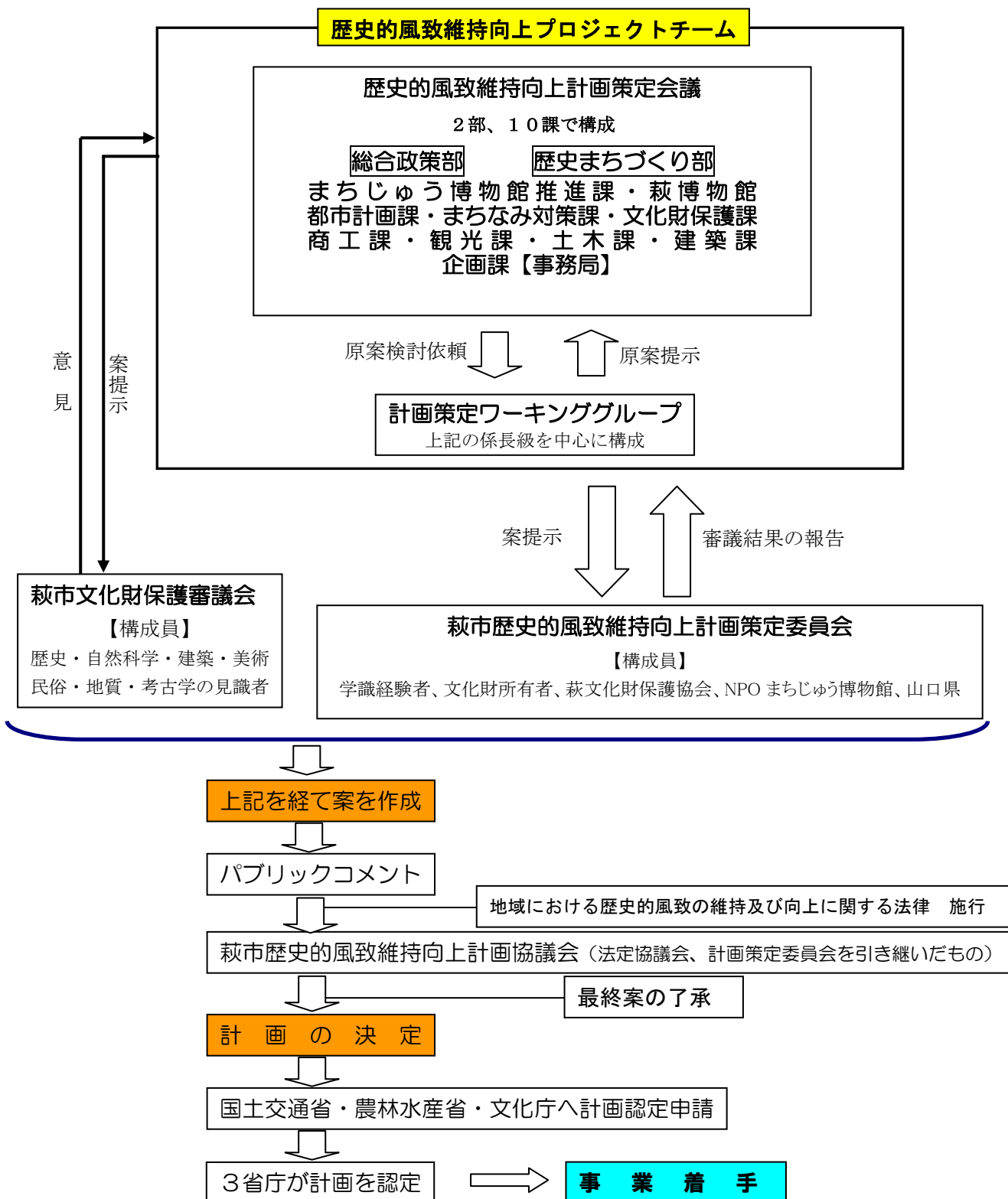
・重点区域及び計画全体について協議

- 同年 10月14日～11月12日
パブリックコメントの実施
 - ・萩市報及び萩市公式ホームページに掲載することにより実施
 - ・主な意見：萩市の財政状況を踏まえた事業実施
- 同年 11月4日
「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」の施行
- 同年 11月11日
歴史まちづくり法中国ブロック説明会
主催：国土交通省中国地方整備局、広島県、倉敷市
共催：文化庁、農林水産省
会場：倉敷市
内容：①歴史まちづくり法についての説明
②基調講演
③事例紹介 倉敷市、萩市
- 同年 11月14日
第1回萩市歴史的風致維持向上計画協議会（法定協議会）の設置及び開催
 - ・「萩市歴史的風致維持向上計画（案）」の審議
 - ・主な意見
 - ・歴史的景観になじまない建造物の取扱いについて
 - ・歴史的風致形成建造物の指定の方針、など
- 同年 12月2日
「萩市歴史的風致維持向上計画」の認定申請

■萩市歴史的風致維持向上計画協議会 委員構成

会長	萩市長	行政・萩市
委員	萩市文化財保護審議会会長	学識経験者
	萩市景観審議会会長	学識経験者
	国指定重要文化財「口羽家住宅」所有者	文化財所有者
	NPO萩まちじゅう博物館理事長	市民団体
	社団法人萩文化財保護協会会長	市民団体
	山口県都市計画課長	行政・山口県
	山口県教育委員会社会教育・文化財課長	行政・山口県

歴史的風致維持向上プロジェクトチーム構成図
及び計画策定フロー



【計画の実施体制】

本市では、平成16年4月の萩まちじゅう博物館条例の施行を契機に、萩まちじゅう博物館を推進する市民活動団体「NPO萩まちじゅう博物館」が同年6月に誕生し、市民による「萩まちじゅう博物館」の推進活動の中核を担っている。

また、「浜崎しっちょる会」は、重要伝統的建造物群保存地区である萩市浜崎の歴史的景観を守り、活かすため、公開施設として整備した旧山中家住宅の管理や「浜崎伝建おたから博物館」といったイベントなどを開催し、個性豊かな魅力あるまちづくりに努めている。「NPO萩観光ガイド協会」は、市内の文化財施設の管理を行うとともにそこを訪れる観光客に施設ガイド、観光ガイドを行っている。

その他にも、松下村塾をはじめとする維新の志士の旧宅が点在する旧松本村地区には「維新の里づくり協議会」が、萩城跡のある堀内地区には「NPO萩城城郭保存会」が次々と設立されており、地域が持つ歴史的特性をまちづくりに活かそうとする市民活動が活発に行われている。

計画に定める事業等の実施については萩市歴史まちづくり部が中心となっており、また計画の変更については萩市総合政策部企画課が中心となっており、上記団体等との協働により計画を推進していくこととする。

また、山口県及び山口県教育委員会との調整については、萩市歴史的風致維持向上計画協議会及び事業実施計画時においてこれを図ることとする。

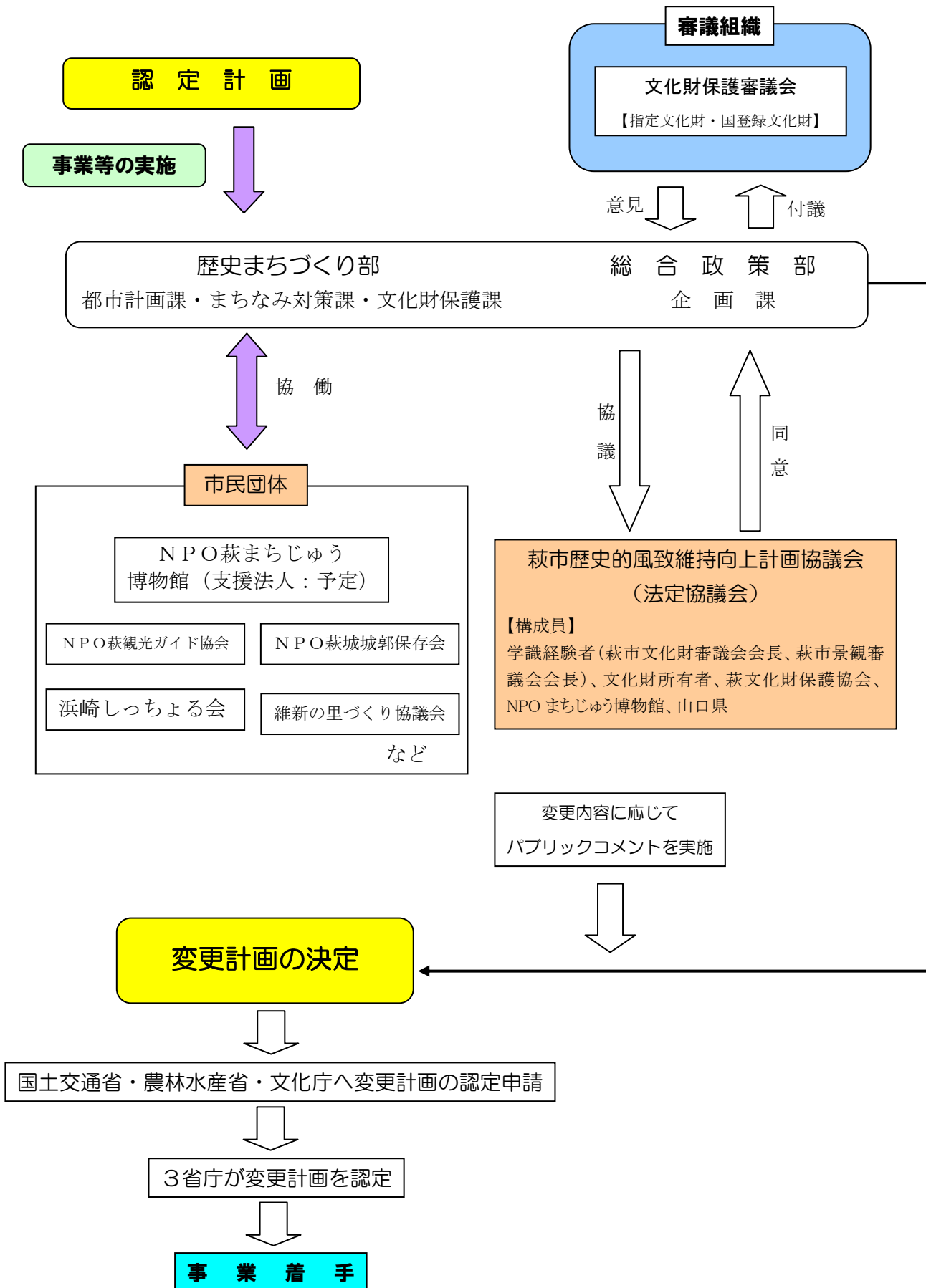


NPO 萩まちじゅう博物館によるガイド



浜崎しっちょる会によるまちなみガイド

計画の実施体制



【教育委員会等文化財部局とまちづくり部局との連携体制】

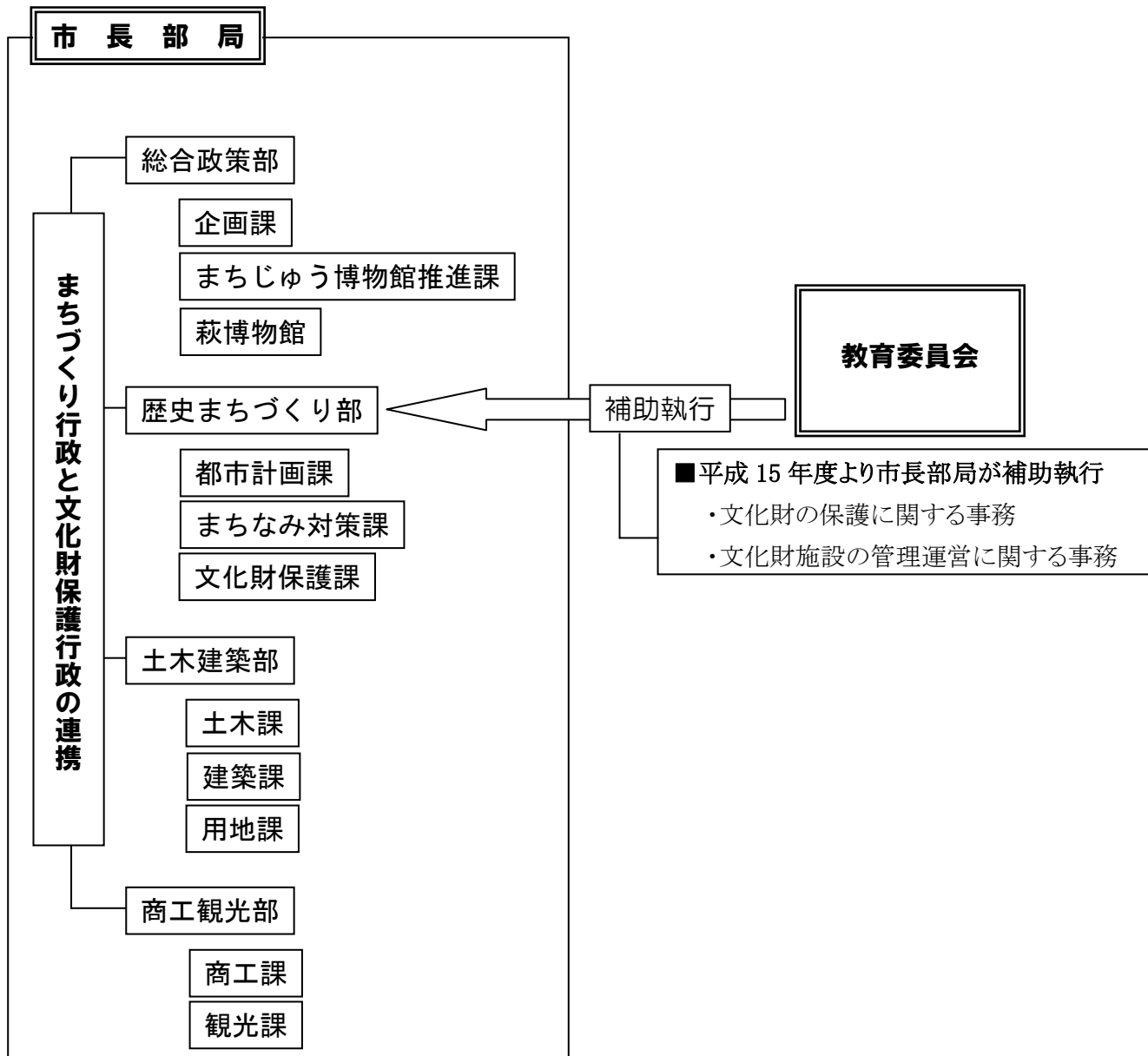
萩市においては、まちづくり行政と文化財保護行政の円滑な連携を図るため、平成15年度から文化財保護に関する事務について、教育委員会が市長部局に補助執行させている。また平成20年度からは、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」によるまちづくりを積極的に推進するため、都市計画課、まちなみ対策課、文化財保護課の3課からなる歴史まちづくり部を創設した。

また、文化財保護と様々な分野でのまちづくりの整合を図るため、総合政策部、歴史まちづくり部、土木建築部及び商工観光部によるプロジェクトチームを設置し、横断的に連携した推進体制を整備した。

なお、市長部局による教育委員会の事務の補助執行にあたり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第14号により教育委員会の職務権限とされる文化財の保護に関し根幹を成す次の事項について、教育委員会において事務を処理することにより、文化財保護行政の独立性を担保している。

- (1) 萩市指定文化財の指定及びその保持者又は保持団体の認定
- (2) 萩市指定文化財の指定の解除及びその保持者又は保持団体の認定の解除
- (3) (1) 又は(2) に関する萩市文化財保護審議会への諮問
- (4) 補助執行させる事務に係る教育委員会規則等の制定又は改廃に関する事務
- (5) 補助執行させる事務に係る法令又は条例等に基づく教育委員会の所管に属する各種委員会等の委員の委嘱又は任命に関する事務
- (6) 文化財保護に関する事務及び萩市文化財施設の設置及び管理に関する条例に定める文化財施設の管理運営に関する事務のうち、教育委員会が特に重要と認められるものについては、これを教育委員会に諮らなければならないこととする。

【庁内体制図】



【参考文献】

計画策定の基礎資料となる萩の歴史的風致に関する参考文献としては、下記のとおりである。

- ・萩市史編纂委員会編『萩市史第一巻』萩市 1983年
- ・萩市史編纂委員会編『萩市史第二巻』萩市 1989年
- ・萩市史編纂委員会編『萩市史第三巻』萩市 1987年
- ・萩市教育委員会編『萩城外堀発掘調査報告書』萩市教育委員会 1988年
- ・萩市教育委員会編『史跡萩城跡・萩城城下町保存管理計画策定事業報告書』萩市教育委員会 1991年
- ・萩ものがたり編集部編『萩市の文化財』萩市 2005年
- ・『萩図誌』萩青年会議所 1978年
- ・『歴史群像名城シリーズ⑭ 萩城』学習研究社 1997年
- ・小川国治編『山口県の歴史』山川出版社 1998年
- ・八木 充編『図説 山口県の歴史』河出書房新社 1998年
- ・『朝日百科日本の国宝別冊国宝と歴史の旅5城と城下町』朝日新聞社 2000年
- ・吉田伸之「近世の城下町・江戸から金沢へ」『日本の歴史・別冊歴史の読み方2都市と景観の読み方』朝日新聞社 1988年
- ・西山徳明「城下町から都市遺産へ」『週刊日本遺産14萩津和野』朝日新聞社 2003年
- ・高橋康夫・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅編『図集日本都市史』東京大学出版会 1993年
- ・宮本雅明「城下町の空間類型」『年報都市史研究2城下町の類型』山川出版社 1994年
- ・宮本雅明「象徴性と公共性の都市史—日本近世都市の歴史・空間・景観」『シリーズ都市・建築・歴史5 近世都市の成立』東京大学出版会 2005年
- ・吉田伸之編『日本の近世第9巻 都市の時代』中央公論社 1992年
- ・田中誠二「藩からみた近世初期の幕藩関係」『日本史研究 356』日本史研究会 1992年
- ・小島道裕「近世城下町の成立」『城の語る日本史』朝日新聞社 1996年
- ・佐藤 滋『城下町の近代都市づくり』鹿島出版社 1996年
- ・「角川日本地名大辞典」編纂委員会編『角川日本地名大辞典35 山口県』角川書店 1988年
- ・西山徳明『萩まちじゅう博物館』萩ものがたり 2004年
- ・萩博物館編『萩博物館展示案内』萩博物館 2004年
- ・萩博物館編『萩のまちは屋根のない博物館 萩博物館展示案内』萩博物館 2006年

- ・佐藤 滋『図説 城下町都市』鹿島出版社 2002年
- ・『萩堀内平安古一萩市〔堀内・平安古地区〕伝統的建造物群保存対策調査報告』萩市教育委員会 1986年
- ・『萩 堀内・平安古一萩市〔堀内・平安古地区〕伝統的建造物群保存地区見直し調査報告』萩市まちなみ対策課 2004年
- ・『萩浜崎一萩市〔浜崎地区〕伝統的建造物群保存対策調査報告（増補版）』萩市都市計画課 2001年
- ・『重要文化財熊谷家住宅（主屋・宝蔵）修理工事報告書』（財）熊谷美術館 1980年
- ・『重要文化財熊谷家住宅離れ座敷ほか3棟保存修理工事報告書』（財）熊谷美術館 1997年
- ・『重要伝統的建造物群保存地区（萩市平安古地区）旧田中別邸保存修理工事報告書』萩市 2001年
- ・『史跡旧萩藩校明倫館（南門）保存修理工事報告書』萩市 2006年
- ・『史跡木戸孝允旧宅保存修理工事報告書』萩市 1997年
- ・『史跡萩城城下町（旧久保田家）保存修理工事報告書』萩市 2005年
- ・『重要文化財東光寺鐘楼・三門・総門・大雄宝殿保存修理工事報告書』宗教法人東光寺 1993年
- ・『重要文化財菊屋家住宅保存修理工事報告書』菊屋嘉十郎 1981年
- ・『史跡萩城城下町（菊屋家旧宅）修理工事報告書』菊屋榮子 1983年
- ・『史跡萩城城下町（菊屋家住宅）保存修理工事報告書』財団法人菊屋家住宅保存会 1991年
- ・『史跡萩城跡旧周布家長屋門保存修理工事報告書』萩市 1973年
- ・『史跡明倫館水練池及び有備館附明倫館碑保存修理工事報告書』萩市 1970年
- ・『重要文化財旧厚狭毛利家萩屋敷長屋保存修理工事報告書』萩市 1968年
- ・『史跡旧萩藩御船倉保存修理工事報告書』萩市 1972年
- ・『重要文化財常念寺表門修理工事報告書』重要文化財常念寺修理委員会 1971年
- ・『重要文化財口羽家住宅（主屋表門）修理工事報告書』口羽良通 1979年
- ・『重要伝統的建造物群保存地区（萩市平安古地区）旧田中別邸保存修理工事報告書』萩市 2001年
- ・『霊椿山大照院伽藍調査報告書』萩市教育委員会 2001年
- ・『史跡萩城跡（東園地区）整備計画策定報告書』萩市教育委員会 1990年
- ・『歴史の道調査報告書（萩往還）』山口県文化財愛護協会 1981年
- ・『山口県の近世社寺建築 近世社寺建築緊急調査報告書』山口県教育委員会 1980年
- ・『山口県埋蔵文化財センター調査報告 第27集 萩城跡（外堀地区）Ⅰ』山口県埋蔵文化財センター 2002年
- ・『山口県埋蔵文化財センター調査報告 第46集 萩城跡（外堀地区）Ⅱ』

- 山口県埋蔵文化財センター 2004年
- ・『山口県埋蔵文化財センター調査報告 第52集 萩城跡（外堀地区）Ⅲ』山口県埋蔵文化財センター 2006年
 - ・『萩まちじゅう博物館 基本計画・行動計画』萩市 2005年
 - ・『都市集住様式の歴史的研究 Ⅲ（萩の場合）』財団法人新住宅普及会・住宅建築研究所 1978年
 - ・山口大学工学部感性デザイン工学科建築・都市史研究室『萩・御成道沿いの町屋—森井家住宅—調査報告書』森井緑朗 2003年